サリドマイド被害と歩んだ道のり

三重県　　高橋　真一

私は 1963 年 3 月 27 日に滋賀県で生まれました。
61 年間生きてきましたがひと言で言い表せないくらい辛かった事、悲しかった事も沢山ありました。
しかし、悪い事ばかりでもなかったのも事実です。
私自身体験してきた事をこの原稿にまとめます。

小学生くらいの時だったと思いますが、「なんで僕の手はみんなと違うの?」「なんで左手だけ短くて曲がっているの？」と両親に聞いて二人共凄く困った顔をしていた記憶をうっすらと覚えています。
その頃だと思いますが両親から『サリドマイド』というワードを聞かされ、もう一生治らないと聞き子供心に凄く傷つきめちゃくちゃ泣いたと思います。

小学校 3 年の時、父の仕事の都合で滋賀県より三重県に引っ越ししました。
新しい友達も出来て馴染んだ頃、同級生に言われた事は「ゆびなしおばけがいましたよ」って節までつけてからかわれました。酷くないですか？小学生なら仕方ないか
でも凄いものですね。50 年くらいたった今でもまだ覚えています。

中学生の時、担任の先生に放課後「高橋君以外は全員残って」って言われ、次の日に気になって友達に「先生なんて言ってたん？」て聞くと「高橋君は障害があって可哀想な子やで仲良くしてあげてください。」みたいな事を言われたと聞きました。
障害があって可哀想？？うーん？
その先生の一言でそれまで仲良くしていた友達ともギスギスし、中学時代は全く楽しくなく嫌な日々を過ごしました。
今となっては先生も本当に私の事を思って言ってくれたんだと思いますが、その当時はどうしてもその先生が好きになれませんでした。
唯一、中学時代打ち込めた事は卓球部に 3 年間所属していて早朝、放課後に卓球をしていると嫌な事も忘れて没頭出来て良かったです。
でも、その中学時代が無意味だったかと言うとそうじゃなかった。
このままではあかん！自分が変わらんとあかん！

高校生になりました。
津商業高校という男女共学の高校に入学しました。

共学と言っても女子９男子１くらいの割合でしたが、、、
まずはクラブ、卓球とも思ったのですが誘われて軟式テニス部に入部しました。
テニス出来る？それも後衛、サーブ打たんといかんぜ。
自分でも思ったけど、これがなかなか器用にこなせてペアを組んで何度か大会にも出させていただきました。（弱かったけど）
高校時代は中学時代の教訓もあり、物事をポジティブに考えるようになり男女問わず友達も沢山出来ました。

その頃に中京地区の皆さんと知り合い、ボランティアの方々とお世話になり、いしずえのセミナーにも参加させていただきました。
正直最初はそんな公の場に行くのは嫌だなって思っていましたが、“自分も変わろう”と決心したので行こう！
結果、行って良かった。楽しかった。
みんな色んな過去がありながら元気で楽しそうでしっかりしている。
『俺は今まで何をうじうじ考えていたんだ！』って恥ずかしく思うばかりでした。
今思うと人生のターニングポイントだったと思います。

そして就職！頭悪いし働くところはあるんかいな？その頃も相変わらず目標も見つからずどうしたものかと思っていたら、高校のテニス部の先輩が「俺もいるからお前もうちに来い！」って誘っていただき何とか三重県の自動車会社に就職出来ました。

自動車会社に入社して 43 年、良くここまで続いたと自分でもびっくりしています。
入社から 29 年経理部に配属され、14 年は総務部として働いております。
経理部当時は銀行の資金関係、出納管理等を任され毎日残業の日々でしたが、営業所より「金庫が合わない」と電話があると進んで営業所に出向き顔を売る事に専念しました。
総務部に配属されてからは全社員の給料、年末調整など給料に係る仕事を任されました。
責任重大です。何度か間違えてお叱りを受けた事も多々ありました。
私はこの会社で働かせていただいて自分自身も強くなったと思いますし、多くの皆さんに支えていただきとても感謝しています。
近年、弊社の社員がメンタルで悩んでいる人が非常に多く、総務として同僚として色んな方から相談にのる事が増えてきました。
ちょっと生意気に聞こえるかもしれませんが、最近思うことがありまして、私に障害がなかったら人の痛み・苦しみなどわかってあげられる人間になっていたのかな？
私自身障害があった為、困っている人がいれば助けになりたい、人の気持ちがわかってあげられる人間になりたいという気持ちがより強くなった気がします。
しかし、人によって悩みも十人十色ですから、話を聞いてあげてアドバイスをしてあげ

るのはとても難しいと痛感しております。
　現在私も 61 歳になり 1986 年 23 歳の時に職場の同僚と結婚し、子供も 4 人授かりました。お陰様で子供たちも大きく育ち結婚している子、結婚していない子半々ですが、幸せに暮らしています。
　母はまだ元気ですが、父は 8 年前に他界しました。
　今まで両親に私が産まれた時の話をあまり聞いたことがなく、正直聞いてしまうと母を責める事にならないかと興味がない振りをしてきましたが、私のお中には左手に移植した傷跡が残っています。
　それが全てで想像すると、両親は小さな私を抱かえてあっちこっちの病院を回って何とか治してあげたい気持ちでいっぱいだったと思います。
　それだけで十分です。

　最後になりましたが、薬は日常生活で不可欠です。
　その薬で助かる命も多くあります。
　新しい薬の開発も非常に大切な事は誰もがわかっています。
　しかし、人が口にする物は念には念を入れて下さい。
　あの時の過ちでは済まされません。
　今後薬品に係るすべての方にお願いします。
　二度と私達のような被害者が出ない事を切に願います。

　仕事の関係上、直接お話し出来ず申しわけありませんでした。

　ご清聴ありがとうございました。